

課題	様々な交流の場を増やし, 高齢者を孤立させない地域にする必要がある
	高齢者等外出困難者の移動手段を確保し, 地域内の移動を可能にする必要がある
	助け合いの精神を持ち, 住民が互いに思いやる必要がある

Gr	目標	付箋の記載事項
A グループ	<b>高齢者が 幸せを感じるまち</b>  (24件)	・高齢者と若い世代が趣味の集まりを持つ。
		・年齢を超えて地域での交流を深める。
		・誰でも出掛けられるような場所を確保してもらいたい。
		・高齢者が幸せを感じるまち。
		・若い世代との交流場を多く作る。
		・歩いて行ける場所に「居場所」を作る。
		・ご近所の交流を高めるための伝言ボードや掲示板を設置。
		・年代のバリアフリーな交流あるまち。(お年寄り, 子ども, 若者達, ファミリー)
		・自治会公民館などで高齢者への出前授業をする。
		・地域内交通網が細部まで行きわたる。
		・地域内の交通利便性の強化。
		・河内の福祉知名度UP 高齢者もイキイキ。
		・シルバー人材の教育システムの充実。(生涯現役でヨコのつながり)
		・地域内交通の利用者が増え, 高齢者同士の輪が広がる。
		・地域内交通が整備され, だれもが気軽に利用できる。
		・高齢者が目的を持って, はつらつと生きている。
		・施設などへの入所制限が緩やかになる。
		・高齢者が地域の小中学校の授業に参加する。
		・買い物に行けない家庭に「引き売り」がある。
		・独居老人を作らないように家族の人達の暖かい気持ちが大切。
・介護予防教室の充実(世代別に分けた)60代70代80代。		
・地域が一丸となり見守りができる。		
・思いやりの精神を持ち, 声をかけ合いお互いに助け合っていきたい。		
・高齢者だけが入居するマンションがあり, 助け合って生活できる。		
B グループ	<b>住民が思いやる心で 支える地域づくり</b>  (18件)	・専門士の育成→ボランティア集め→NPOへ。
		・NPO, ボランティアグループを多く創出し, 集まりの場を3地区に定例化させる。(民間企業・大学・役所を活用)
		・自治会の活用 公民館の活用。(交流の場)
		・高齢者の仲間づくりを進める。
		・公民館等を利用し高齢者の交流の場を図る。
		・高齢者が安心して暮らせるまちづくりのためにボランティアの養成を考える。
		・包括支援センターの有効活用。
		・地域内での相互扶助の地域力を高める。
		・各地域で老若男女が楽しめるイベントを実施する。
		・社会福祉協議会の極め細やかな施策の充実。
		・高齢者に生きがいを持たせる施策の充実。
		・福祉, 健康, 安全・安心の総合トレーニングセンターを河内に作る。
		・デマンドタクシー 施行結果を確認。(来年度)
		・デマンド交通を最大限に活用して, 高齢者の優遇制度を作る。自治会内に専任者を設ける。
		・地域内移動の心配のないまちづくり。
		・地域内交通(デマンドタクシー)の実施。
		・施設の段階を仕分ける。(①相談②デイ③入所)
		・公共施設に研修会, 勉強会をつくる。外部より講師を招いて定例化をする。
C グループ	<b>高齢者も子どもも 楽しく住みやすい「まち」</b>  (11件)	・孤立感のないまちづくり。
		・ご近所の付き合いを親密にし, 孤立しない環境を作りたい。
		・後期高齢化。
		・元気のあるまちづくり。
		・大人から子供まで参加活動する施設と施策を作り連携を深める。
		・地域内交通(LRT, デマンド)を有効に使える環境整備。
		・高齢者にやさしい思いやりのある「まち」。
		・昔の隣組の関係の復活(近所への目配り気配り)
		・高齢者の人口が多くなり, 高齢者の住みやすいまちづくり。
		・子供達が元気なまちづくり。
		・子供がのびのびと楽しく暮らせるまち。

テーマ『福祉, 健康, 安全・安心』 グループ協議結果【健康】 目標設定

課題	施設の有効利用と気軽に参加できるスポーツを通して, 健康づくりを進める必要がある
	食育に関する意識を向上させ, 健康に配慮した取り組みをする必要がある
	多様な機会を捉えて健康づくりの啓発を進め, 健康に対する意識を高める必要がある

Gr	目標	付箋の記載事項
A グループ	健康寿命が伸びるまち (15件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツする施設の充実。</li> <li>・ニュースポーツチームを作り, 世界大会にも出場する。</li> <li>・スポーツが楽しくなるようにする。</li> <li>・スポーツ施設を(特にサッカー場)増やし, スポーツ大会充実。</li> <li>・地域のアスリートに学ぶ子どものためのスポーツ選手育成プログラムの充実。</li> <li>・年をとっても健康であるためには, 身体を動かせる施設があっても良い。</li> <li>・地元の野菜を使用した献立の給食がだされ, 農家の方と交流(会食)する。</li> <li>・食べ物は好き嫌いなしに何でも食べるようにする。</li> <li>・食事面, 生活環境面が整い, 健康寿命がさらに延びる。</li> <li>・子どもたちのアレルギー軽減 クリーンなまち。</li> <li>・食育イコール健康増進。</li> <li>・塩分を摂り過ぎない。</li> <li>・高齢の独居者が栄養管理されたお弁当を安価に手に入れることができる。</li> <li>・集団検診, 個別健診が自由に受けられる。(年2回以上)</li> <li>・食育セミナーを定期的で開催。(日常に役立つ料理教室)</li> </ul>
B グループ	健康で生きがいのある 人づくり (17件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区体育流の大会を年4回実施する。健康診断を無料にする。</li> <li>・回覧板等で施設をPRして参加者を募る。(施設の有効利用)</li> <li>・スポーツを身近で楽しめる場を作る。</li> <li>・老若男女が気軽に楽しめるスポーツ教室の推進。</li> <li>・行政の様々な活動を有効に働きかける。包括支援センターの有効利用。</li> <li>・体力づくりができる体育館の充実。</li> <li>・運動, スポーツ施設の周知。歩く, 走る, サイクリング道の整備。</li> <li>・スポーツで医者通いを減らす。【例】朝夕のラジオ体操 集会</li> <li>・年代別によるスポーツセミナーを設定し, 各種のスポーツを体験させる。</li> <li>・足湯を自治会単位くらいで作る。たまり場づくり。</li> <li>・年代別の健康づくりの意識を高める。</li> <li>・健康教室の強化を図る。(各自治会に開催の要請)</li> <li>・高齢者の交流の場を増やす。(・にこにこくらぶ・地域内の楽しみグループ・学校給食への野菜等の提供)</li> <li>・高齢者を問わないで地域づくりの中に食のテーマを設定する。</li> <li>・福祉, 健康に関する生涯学習センターの充実を図る。</li> <li>・食育勉強会を地区全体で実施する。・道の駅を2ヶ所つくる。</li> <li>・多目的, スポーツ施設を10年後につくる。(日本一)税金(借金)を頼らず。自主・自助努力で必達する。</li> </ul>
C グループ	健康で安全な 食生活を営める「まち」 (9件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ施設を十分に活用し健康なまち。</li> <li>・食が楽しめるまち 安心な食材でだれもが安心できるまち。</li> <li>・地の利, 活かした食生活を誇れるまち。</li> <li>・散歩や歩き楽しめるまち。</li> <li>・生涯学習等で安全安心の食育をする。</li> <li>・食育を考える場を作り, 健康な生活を確保する。</li> <li>・現在の福祉施設をフル利用して(プール, 運動場)体力の維持を図る。</li> <li>・次代を担う子供達のための食育意識の向上。</li> <li>・スポーツ施設を利用しやすくし, 健康づくりの向上。</li> </ul>

テーマ『福祉, 健康, 安全・安心』 グループ協議結果【安全・安心】 目標設定

課題	交通ルールの遵守と交通マナーの向上に勤める必要がある
	災害に対する高い意識を持ち, 地域の防災力を高める必要がある
	地域ぐるみで防犯に対する意識を高める必要がある

Gr	目標	付箋の記載事項
A グループ	<b>安心して住めるまち</b> (18件)	・交通事故ゼロにする。
		・公共の交通が自由に低額で利用できる。
		・自転車の事故が恐ろしいことを認識する。
		・交通安全マナーを促す「ゆるキャラ」を巡回させる。(パトロール)
		・車に乗らなくなった高齢者に自転車, 三輪車などを斡旋する。
		・ご近所が仲良く暮らせる 自治会の充実。
		・孤立した人, 他の地域から引越してきた人たちにも暮らしやすいまちに。
		・自主防災力の確立。
		・災害に強いまちづくり。
		・防災意識を高め, いつでも安心できる暮らしができるが良い。
		・災害に向けての避難訓練を徹底する。
		・防災訓練等には奮って参加するようにする。
		・お互いに声を掛け合って災害から身を守るようにする。
		・外灯の整備。犯罪減らす。(痴漢など)
		・各自治会単位に防犯の組織が整備される。例えば「防犯パトロール隊」
・犯罪の無い地域づくり。		
・地域で見守ることができる防災・防犯。		
・「向こう三軒両隣」の精神が浸透する。		
B グループ	<b>誰もが安全・安心に暮らせるまちづくり</b> (11件)	・警察, 学校, 家庭が一体となり, 交通ルールづくり活動を組織化し実施徹底を図る。
		・声かけ運動を推進する。(隣近所)
		・警察, 交通安全協会と協力し, 学校における学習。
		・防災訓練を年4回以上実施する。(地区)。公共組織を取り込み実施。
		・防犯対策の専任者を河内地区に50人以上設置する。警察と一緒に組織をつくる。
		・平日頃から交通ルール等について, 地域で啓発・啓チラシ活動の強化。
		・住み慣れた地域で安心して暮らせる明るいまちづくり。
		・広域避難場所をさらに, 明確にする。(標識)
		・防犯カメラの設置と個人情報の整備。
		・身近な地域を学び合う場をつくる。
・高齢者のグループづくりを進める。		
C グループ	<b>防災・防犯対策に優れた「まち」</b> (9件)	・異常気象による天災に備えたまちづくり。
		・地域防災マップの作成と周知活動を徹底する。
		・最近の気象条件の変化による天災に備えたまちづくり。
		・地域ぐるみで防災防犯を意識するまち。
		・交通マナーとモラルの向上を図る。
		・交通安全, 特に自転車の利用者にルールとマナーの教育をする。
		・身の回りにおける危険箇所を各々が認識する。
		・子供達を見守る地域の輪を広げる。
・防災防犯対策にすぐれたまち。		